

氏名	陳 炳 官
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第1437号
学位授与の日付	平成8年3月25日
学位授与の要件	医学研究科病理系寄生虫学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Inhibition by CsA and FK506 of the in vitro proliferative response of $\gamma\delta$ -T cells on stimulation with anti-TCR δ mAb (抗TCR δ 抗体刺激による $\gamma\delta$ T細胞のin vitro増殖反応 とCsAおよびFK506によるその抑制)
論文審査委員	教授 折田 薫三 教授 赤木 忠厚 教授 岡田 茂

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Tg.Tla^a-3-1マウスは、Aマウス由来のTla^a-3遺伝子をC3H/Heマウスに導入したトランスジェニックマウスである。われわれは、Tg.Tla^a-3-1マウスの脾細胞はC3H/Heマウスの脾細胞とは異なり、固相化抗TCR δ 抗体(3A10)で刺激すると増殖反応を起こすことを明らかにした。このように、Tg.Tla^a-3-1マウスは $\gamma\delta$ T細胞の機能を解析するうえで有用である。さらに、Tg.Tla^a-3-1マウス $\gamma\delta$ T細胞の増殖反応は、CsA およびFK506によって抑制されることを明らかにした。CsA およびFK506による $\gamma\delta$ T細胞の増殖抑制効果はrIL2を添加しても回復しない。in vivoで $\alpha\beta$ T細胞を除去したTg.Tla^a-3-1マウス脾細胞の $\gamma\delta$ T細胞の増殖反応も同様にCsA およびFK506によって抑制された。このことより $\gamma\delta$ T細胞の増殖に対するCsA およびFK506の抑制作用は $\alpha\beta$ T細胞を介するものではなく、 $\gamma\delta$ T細胞に対する直接効果であると考えられる。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究者は、AマウスのTla^a-3遺伝子をC3H/Heマウスに導入してトランスジェニックマウスを作製している。このマウスの脾細胞にはC3Hマウスのそれに比し約10倍の10% $\gamma\delta$ T細胞と約1/3の11%の $\alpha\beta$ T細胞のあることを確認の後、まずin vitroで抗TCR δ 抗体で刺激するとトランスジェニックマウスの脾細胞のみが増殖することを明かとし、ついでこの増殖反応はCsAとFK506で抑制され、IL-2の添加にても回復しないこと、さらに $\alpha\beta$ T細胞を除去した脾細胞にても増殖抑制のおこることをみている。本実験システムは $\gamma\delta$ T細胞の研究に有用なことを初めて明らかとしている。よって本研究者は博士(医学)の学位を得る資格のあることを認める。